

# 17

Capture .....

## 17章 区分間按分

区分間按分機能 .....	2
1. 按分機能の概要 .....	2
2. 科目のメンテナンス .....	2
3. 区分間按分マスタ .....	3
4. 区分間按分仕訳 .....	3
5. 区分間按分結果 .....	4

## 区分間按分機能

### 1. 按分機能の概要

区分間按分のパターンマスタを登録します。

按分機能は大きな流れとして、以下ようになります。

#### <初期設定>

- ・ 按分根拠数の算出。
- ・ 按分パターン登録。

#### <実務処理>

1. 按分元サービス区分での按分対象となる科目の締め。
2. 按分金額の集計、調整、登録。
3. 按分元の按分仕訳及び按分先それぞれのサービス区分での按分仕訳の登録によって、以下のような制限がありますのでご了承ください。

### 2. 科目のメンテナンス

按分を行うにあたり、サービス区分等を正確に認識するために科目の追加を行います。

#### 按分対象科目の区分の設定

- ・ 水道光熱費などの全額を機械的に按分してしまうのならばこの設定は必要ありませんが、集計された科目の一部を按分したい場合、区分の設定が必要となります。
- ・ 例えば、電気代のうち2種類の契約があり、1つは特養のみが使用し、2つ目は全体で使用しているが、支払は特養で行っているようなケース。
- ・ 下層科目の名前の付け方はお客様の任意になりますが、例として「全体」「施設のみ」「その他」等の名称を利用するとわかりやすいかもしれません。



- ・ これは01が按分する水道光熱費、02や03はそうでないものを下層区分にした例です。按分対象となる科目のみ01で仕訳を行います。

※これらの科目追加の設定は必ず拠点区分の共通コードで行って下さい。

### 3. 区分間按分マスタ

初期設定 → 各種取込マスタ → 区分間按分マスタ

1. 拠点区分、処理年度を登録します。
2. コード番号、パターン名を登録します。
3. 支出/収入、分類を選択します。(分類の追加は、右隣の[設定]ボタンより追加登録出来ます。)
4. 仕訳方式、按分方式を選択します。
5. 按分先の拠点区分、サービス区分、部門区分、摘要、按分科目を選択します。
6. **根拠数**を入力します。

<根拠数とは>

- ※ 40%と60%の場合、数字のみ **40** **60** と入力します。(下部の合計欄に **100** と表示されます。)
- ※ パーセンテージ以外に、平米数や、部屋数、人数等を用い、均等按分、比例按分等が利用可能です。
- ※ 端数が出た場合、端数を調整する行区分に  を選択します。
- ◆ 既に登録された按分科目の呼出しや、コード変更は右上のボタンを選択します。

根拠数は100になる必要はありません。

根拠数	比率	端数
40	40.00%	<input type="radio"/>
60	60.00%	<input type="radio"/>
100	100.00%	<input type="radio"/>

### 4. 区分間按分仕訳

メインメニュー → 仕訳伝票入力 → 取込 → 区分間按分

仕訳伝票入力画面で、按分仕訳を取り込みます。

1. 支払拠点区分、サービス区分、相手科目を選択します。  
※相手科目は【共通科目】です。(単独科目は使用出来ません。)
2. 按分金額を入力します。
3. 按分パターンを選択します。
4. 内容確認後 **実行：F1** を押します。
5. 仕訳に反映されますので、内容確認後 **登録：F1** で完了します。

## 5. 区分間按分結果

仕訳伝票入力 → 取込 → 区間按分 → 区分間按分結果

区分間按分仕訳で、選択した「相手科目」「パターン」を元に、区分間按分結果が表示されます。  
**按分方法は「各区分できちんと按分する方法」と「按分元区分が全て損益をかぶる方法」があります。**

仕訳方式：諸口 / 按分方式：直接

1.特養 2.ショートへ按分の場合

拠点区分	借方科目	サビ	区分/部門区分	摘要	金額
1	サーブ施設 諸口	特養		2 3月分	100,000
2	サーブ施設 業)水道光熱費	特養		2 3月分	62,500
3	サーブ施設 業)水道光熱費	ショート		2 3月分	37,500

仕訳方式：諸口方式  
 按分方式：直接

仕訳方式  諸口方式  直接方式  
 按分方式  直接  繰入金収入支出  長期借入貸付  短期借入貸付

合計 200,000

- 区分間按分マスタで(上記)青枠の設定した場合、区分間按分結果はこのようになります。
- 仕訳に **諸口** が使用され、仕訳は下記ようになります。

### 例) 相手科目が【水道光熱費】の場合

【施設 1】

	借方	貸方	金額
①	諸口	現金預金	100,000
②	水道光熱費	諸口	62,500

【施設 2】

	借方	貸方	金額
①	水道光熱費	諸口	37,500

仕訳方式：直接 / 按分方式：直接

1.特養 2.ショートへ按分の場合

区分間按分結果

区分間按分結果

処理年度 平成 25 年度 日付 平成 25-04-01 按分結果No 按分金額 100,000

拠点区分 借方科目	サビ区分/部門区分 貸方科目	摘要	金額
1 サーブ施設 業)水道光熱費	特養 普通預金	2 3月分	62,500
2 サーブ施設 業)水道光熱費	ショート 普通預金	2 3月分	37,500
合 計			100,000

仕訳方式：直接方式  
按分方式：直接

仕訳方式  諸口方式  直接方式  
按分方式  直接  繰入金収入支出  長期借入貸付  短期借入貸付

伝票生成 F2 終了 F4 F5 F6 F7 検索 取消 F10 F11 F12

- ◆ 区分間按分マスタで(上記)青枠の設定した場合、区分間按分結果はこのようになります。
- ◆ 仕訳は **直接** の場合、下記のようになります。

例) 相手科目が【水道光熱費】の場合

【施設 1】

	借方	貸方	金額
①	水道光熱費	現金預金	62,500

【施設 2】

	借方	貸方	金額
①	水道光熱費	現金預金	37,500

仕訳方式：諸口 / 按分方式：繰入金収入支出

1.特養 2.シヨートへ按分の場合

区分間按分結果

区分間按分結果

処理年度 平成 25 年度 日付 平成 25-04-01 按分結果No 按分金額 100,000

拠点区分	サービス区分/部門区分	摘要	金額
1	サービス施設 借方科目 諸口	貸方科目 特養 普通預金	2 3月分 100,000
2	サービス施設 業)水道光熱費	特養 諸口	2 3月分 62,500
3	サービス施設 サービス区分間繰入金費用	特養 諸口	2 3月分 37,500
4	サービス施設 諸口	特養 繰入金収益	2 3月分 37,500
5	サービス施設 業)水道光熱費		2 3月分 37,500
合計			275,000

仕訳方式：諸口方式  
按分方式：繰入金収入支出

仕訳方式  諸口方式  直接方式  
按分方式  直接  繰入金収入支出  長期借入貸付  短期借入貸付

伝票生成 F2 終了 F4 F5 F6 F7 検索 取消 F10 F11 F12

- 区分間按分マスタで(上記)青枠の設定した場合、区分間按分結果はこのようになります。
- 仕訳に **諸口** が使用され、仕訳は下記ようになります。

例) 相手科目が【水道光熱費】の場合

【施設 1】

	借方	貸方	金額
①	諸口	現金預金	100,000
②	水道光熱費	諸口	62,500
③	繰入金費用	諸口	37,500

【施設 2】

	借方	貸方	金額
①	諸口	繰入金収益	37,500
②	水道光熱費	諸口	37,500

仕訳方式：直接 / 按分方式：繰入金収入支出

1.特養 2.シヨートへ按分の場合

区分間按分結果

区分間按分結果

処理年度 平成 25 年度 日付 平成 25-04-01 按分結果No 按分金額 100,000

拠点区分	サビズ区分/部門区分	摘要	金額
1	サーブ施設 借方科目	特養	
	業)水道光熱費	普通預金	62,500
2	サーブ施設 サビズ区分間繰入金費用	特養	
		普通預金	37,500
3	サーブ施設 業)水道光熱費	特養	
		サビズ区分間繰入金収益	37,500

仕訳方式：直接方式  
按分方式：繰入金収入支出

仕訳方式  諸口方式  直接方式  
按分方式  直接  繰入金収入支出  長期借入貸付  短期借入貸付

合計 137,500

伝票生成 F2 終了 F4 F5 F6 F7 検索 取消 F10 F11 F12

- 区分間按分マスタで(上記)青枠の設定した場合、区分間按分結果はこのようになります。
- 仕訳は **直接** の場合、下記のようになります。

例) 相手科目が【水道光熱費】の場合

【施設 1】

	借方	貸方	金額
①	水道光熱費	現金預金	62,500
②	繰入金費用	現金預金	37,500

【施設 2】

	借方	貸方	金額
①	水道光熱費	繰入金収益	37,500